

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県富谷高等学校] 担当教諭名 [関口 聡・八島 美央] (ECC 国際部・有志 23 名)



相手国・地域 [カナダ]

海外学校名 [Lincoln M. Alexander Secondary School] 担当教諭名 [Anura Bellana]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	部活動・有志	富谷高校アートマイル班(ECC 国際部・有志生徒)	20

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Cultural Understanding
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	異文化理解をテーマとした。壁画を描く過程では、相手を知ることで自分の理解を深めるというメッセージを込めながら製作をした。それと同時に、自国を相手に理解してもらっただけでなく、相手が自分をどう見ているのかを客観的に知ることで、お互いに分かり合おうという思いも込めた。
本校担当部分	完成作品
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
自国の文化を描いて相手国に示す、という手法では、自分達の押し売りになり得ることもあり、相手国について調べたことを自分達なりに解釈して描き合う、という流れにした。また、生徒と相手国の生徒とで、自己紹介をした後で、自由にメールをやりとりさせて交流を持たせた。これにより、相手を身近に感じることができ、相手をもっと知りたいという強い気持ちを持つことが出来たと思う。また、相手から自分達がどう見られているのかを想像することも出来たと思う。	昨年度と同様の問題であるが、スカイプやTV会議が使用できなかった。代わりに、今年は、生徒達には相手国の生徒達とメールで個別に直接やりとりをしてもらった。しかし、近年の生徒達のメール離れの影響から(LINEが主流でEメールアドレスを持たない生徒もいたため)、生徒により個別交流に温度差がでた。 また、Eメールとフォーラムだけの交流であったため、交流に時間がかかり、具体的な方法をどのようにするかを決定するまでに時間がとられた。日本側に戻ってきたのは、3月下旬の春休み期間で、鑑賞時間が持てなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
本校は、昨年度からユネスコスクールに加盟しており、国際交流や異文化理解の機会が普通高校に比べて少しはあるのだが、個人的な交流や、直接海外と交流する機会はなく、多くの生徒がその機会を欲している。今回は、個別にEメール交換をして、少なからず交流の機会を増やすことができた。「返事がきました」と言って喜ぶ顔がみられた。また、共通言語が英語であったため、「自分の英語がメールで通じた」という楽しそうな声や「どんな英語でメールを送るべきか」と悩む声も聞かれ、『交流』の難しさと楽しさの両方について、実感を伴う体験ができたようだ。	昨年度からアートマイルに取り組ませていただいているが、その理由は、生徒も教師も、良い方向に意識の変化があらわれることを知ったからである。「答えがない」「目に見えない」という難しさがある国際理解の分野において、『絵』という目に見える形となって自分達の交流の成果が出来上がることは、とても素晴らしいことであると思う。実感を伴う体験をさせてあげられたという点で、アートマイルはとてすごい力を持つ活動であると思う。今回も生徒と共に国際理解を考えることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 ～ 10月	日本、自分達の紹介をした。送ったものは「学校行事の写真」「部活動の様子の動画」「メンバー全員の集合写真」「手書きの自己紹介カード」などである。	アートマイルに携わるにあたり、チラシを作成したり全校集会でお知らせをして、参加生徒を募った。強制することなく、自然な形で有志生徒が集まったことから、自ら動くという生徒の反応がみられた。相手国から送られてきたメンバー写真にとっても喜んでいて。	部活動 有志活動
共有 テーマ学習	10月 ～ 12月	相手の国について調べた。その内容を、文化祭にて発表した。日本の文化についても、英語の説明と写真でお知らせをした。	カナダについて調べることに平行して、生徒個人に、個別でメールでの交流をさせた。相手からの返信に喜び、交流を実感していたようだった。	部活動 有志活動
融合 想いを合せた メッセージ 壁画デザイン	12月	相手国の先生が美術の先生であることから、構図についての提案を受けた。真ん中にお互いの国を象徴する人物を描くことに決定した。それ以外は、お互いが調べた相手国の文化について自由な視点で描くことが異文化理解の一步である、という考えで思いを合わせた。	テーマや構図を決める上で、生徒達に話し合いの場を持たせた。様々なアイデアが飛び交い、一生懸命に考える様子が見られた。	部活動 有志活動
創造 壁画制作	12月 1月	自分達がイメージするカナダを、グループ毎にスケッチさせて、それを元に下書きをした。カナダの海をイメージした淡い青を下地として、色塗りをした。作品と一緒に、日本のおひな様人形と、メッセージカードを同封して、1月初旬にカナダに送った。	インターネットや旅行パンフレットなど、様々な情報を使いながら、どのようにカナダを描けば良いか試行錯誤していた。絵は苦手であると言いながらも「下手でも伝わればいいね」と言い、楽しく作業を進めていた。	部活動 有志活動
評価 振り返り 自己評価	3月	昨年と同様の鑑賞をした。昇降口に、作品・アートマイル活動内容・作品解説を一緒に掲示した。製作に関わらなかったその他一般の生徒達や先生方、来校者にも成果報告した。学校新聞にも特集をくみ、校内外にも取り組みを知らせた。活動に携わった生徒達には、これまでの活動の自己評価や、感想などを書いてもらった。	制作に携わった生徒達からは「関わって良かった」「また関わりたい」という声のみだった。自己評価としては、自文化よりも異文化理解のきっかけになったと思っている生徒が多かった。また、「日本を美しく描いてもらえたことが単純に嬉しい」という声もあった。交流の中で産まれる《親近感》と《相手に想われているという実感》が、この活動の醍醐味なのだろうと思った。	部活動 有志活動

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	知ってもらいたい自国の文化を考えるきっかけとなった。
異文化の理解	A	3	自分達なりに調べることで理解を深めることができたが、時間が足りなかった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	スカイプやTVフォーラムを使用できなかったため、Eメールとフォーラムでの交流をした。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	インターネットなどの媒体を用いて、相手国やアートマイルについても調べて文化祭で発表し、全校生徒に発信をした。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	4	有志生徒が参加したため、コースや部活動を越えた人間関係をつくることができた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	各々の得意な分野を生かして作業分担をすることができた。
学習を追究する意欲	A	4	国際交流活動の機会が無かった生徒にも、良いチャンスが与えられた。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	C	3	カナダの自然を描くことが思った以上に難しく、美術が苦手な生徒はとて苦勞していた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	3	生徒達の自己評価では、こちらが想像しているよりもコミュニケーション能力や自文化の理解の評価が低かったため、もう少し高みを目指すような仕掛けや働きかけが必要であった。鑑賞については、作品の完成が、制作に関わった3年生達が卒業してからであったので、少し残念であった。

